

平成 29 年 7 月・8 月豪雨

令和 3 年は平成 29 年 7 月・8 月に発生した豪雨災害から 5 年目に当たります。この豪雨災害では、雄物川からの浸水等により住宅や農業施設、道路などに大きな被害を受けました。

平成 29 年 7 月 22 日正午ごろから、秋田県内では停滞した梅雨前線の影響で非常に激しい雨となりました。22 日夜には避難指示が出される地域も出始め、峰吉川観測所（協和地域）では 24 時間雨量が 364 ミリに達し、刈和野観測所（西仙北地域）や長野観測所（中仙地域）では観測史上最高の水位に達しました。住宅への浸水等のほかにも山の斜面から崩れ落ちてきた土砂や立ち木が道路や線路をふさぎ、勢いを増した河川により、道路のアスファルトが剥ぎ取られたり、橋が崩落したりといった被害が出ました。

この約 1 ヶ月後、8 月 24 日から 25 日にかけても、再び大雨に見舞われ、7 月の豪雨の傷跡も癒えない中、市内 3 カ所で氾濫が起きました。断続的に続いた大雨により、7 月に引き続き避難指示も出されるほどで、8 月 26 日に予定されていた「大曲の花火」の開催も危ぶまれました。しかし、花火会場の懸命の復旧作業により大会の開催にこぎつけることができました。

大仙市内に大きな爪痕を残した豪雨災害でしたが、早めの避難指示や消防団等の奮闘により、幸いにも犠牲者は出すことはありませんでした。

また、7 月・8 月ともに市内外から多くのボランティアへの参加があり、泥上げなどの復旧作業に尽力いただきました。



道路が冠水したためボートを使用している救助の様子（平成 29 年 7 月 23 日撮影）



最高水位を記録した刈和野橋付近の様子（平成 29 年 7 月 23 日撮影）



洪水により一面石だらけの協和荒川地域の田んぼ（平成 29 年 7 月 28 日撮影）



割れたアスファルト（平成 29 年 7 月 23 日撮影）

災害と被災資料レスキュー

近年、日本各地で自然災害が相次ぎ、震災や集中豪雨災害などが連続して発生している状況が続いています。災害により資料が失われたり、破損したりしてしまうと、過去に何が起こったのかわからなくなり、地域の歴史が消失の危機に直面します。

このような状況を受けて、日本では平成7(1995)年の阪神淡路大震災をきっかけに、ネットワーク活動による被災資料レスキューが全国的に行われるようになりました。平成23(2011)年の東日本大震災では、広範囲に及ぶ津波被害が発生、多くの資料が水損しましたが、そうしたネットワーク活動により多くの資料がレスキューされました。また、大量に水損資料をレスキューしたことにより、結果として、技術の向上やノウハウの蓄積につながりました。

大仙市アーカイブズでも、自然災害において被災した記録の保全活動を業務対象としており、平成29年度の豪雨災害で被災した淀川保育園（現：協和まほろば子ども園）に対して、被災資料レスキュー活動を行いました。

この活動では、東日本大震災の津波による水損資料レスキュー活動により培われた技術を参考に、市内外からの多くの協力を得ることができました。



淀川保育園付近の様子（平成29年7月24日撮影）



淀川保育園の様子



浸水深度を測る



職員室



職員休憩室



職員休憩室



搬出の様子

7月22・23日の記録的豪雨により、23日未明、協和地域淀川地区にある淀川保育園が、淀川の氾濫のため被災しました。保育園周辺の浸水深度は145cm、床上は80cmまで水没しました。

大仙市アーカイブズでは、26日午前には第一報を受け文書の被害状況を確認し、同日午後には救出しました。



被災資料の全量は、文書ファイル125冊、卒園アルバム（印刷）19冊、写真アルバム2冊（317点）、写真241点でした。7月26日（水）からレスキュー作業を行い、現在もレスキューは続いています。8月3日（木）には、国文学研究資料館の青木准教授、高科プロジェクト研究員が来館されレスキュー作業へのご指導をいただきました。



被災文書に吸水紙の挟み込み、ビニール紐で縛る



吸水紙
(キッチンペーパー新聞サンド)

吸水紙
(キッチンペーパーダンボールサンド)

吸水紙は被災資料の一紙の水分量が7%位になるまで、繰り返し交換する。

乾燥の状況（扇風機等で強制的に風を送る）



アルバム、写真の乾燥



左の写真は、吸水紙のキッチンペーパー新聞サンドづくりを手伝ってくださった、ボランティアのみなさん。アーカイブズ職員だけでは吸水紙づくりとその交換、そして供給が追いつかず、古文書整理ボランティアの皆さんに手伝っていただきました。延べ20時間、吸水紙づくりの作業をしていただきました。

クリーニング作業



汚れを取る
(刷毛)



汚れを取る
(台所用スポンジ)



仕上げ
(マイクロファイバークロス)



市立図書館から、廃棄予定の新聞紙を提供していただきました。（3年分5社）



市内の精巧堂印刷所様から、吸水紙に使用する板状ダンボールをご提供いただきました。



国文学研究資料館のご配慮により、釜石市から東日本大震災被災文書レスキューで使用した、大型扇風機1台の貸出しがありました。

【被災文書レスキューにご協力いただき心から感謝申し上げます。淀川保育園 大仙市アーカイブズ】

大仙市とその近隣の主な火災の記録

西暦	年号	記録
1786	天明6年	5月26日 長野村大火で家屋等39棟焼失
1840	天保12年	7月22日 六郷で大火,全町焼失
1874	明治33年	5月21日 角館町で大火262棟焼失
1902	明治35年	5月 5日 刈和野で大火246棟焼失
1946	昭和21年	5月17日 北檜岡で火災167棟焼失
1952	昭和27年	10月 2日 仙北医療組合病院 全焼 635坪
1952	昭和28年	5月19日 刈和野で火災,住家87棟,非住家50棟全焼
1957	昭和32年	5月10日 北檜岡で大火 317棟全焼
1957	昭和32年	12月18日 大曲駅前仙北協同農業倉庫 7棟,米45,000俵焼失
1959	昭和34年	2月12日 大曲市内デパートと住宅 6棟全半焼
1961	昭和36年	2月12日 大曲市内デパートと住宅7棟全半焼
1961	昭和36年	7月24日 大曲土屋館歯科医院と住家 5棟全半焼死傷者4名
1966	昭和41年	8月21日 協和村荒川水沢で火災,住家等40棟全半焼
1968	昭和43年	12月20日 長野小学校全焼
1974	昭和49年	6月 7日 大曲印刷工場全焼、2棟(1,305㎡)焼失
1976	昭和51年	12月 1日 南外村の医院全焼、死者4名傷者2名
1985	昭和60年	11月16日 大曲農業高校太田分校1990㎡全焼
1989	平成元年	5月19日 大曲市丸の内料理店火災、住家等 5棟全半焼
2001	平成13年	1月22日 大曲市通町で店舗併用住家等 5棟全焼



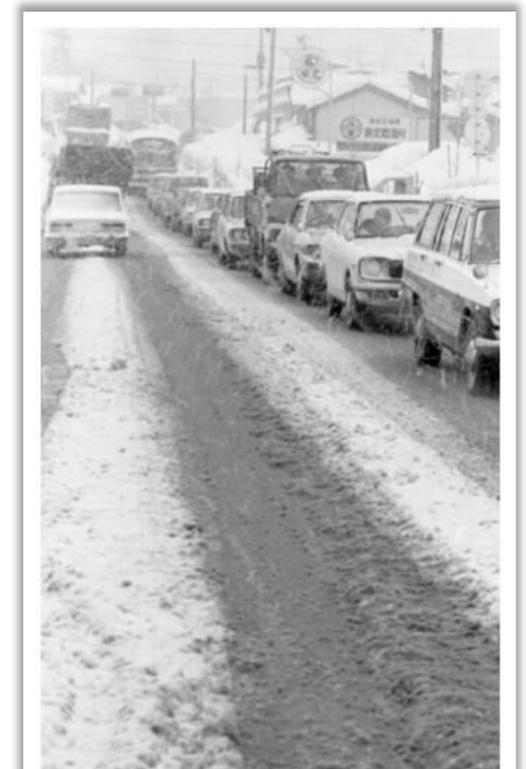
北檜岡の大火事（昭和 32年）

井上一郎写真資料



避難する人々（昭和 32年）

井上一郎写真資料



48家雪（昭和 48年）

大曲市広報写真

主な水害・雪害・風害等の記録（平成17年度以降）

発生年月日	種別	原因	被害状況
平成18年1月-	雪害	豪雪	12月から降り続いた雪は降り止まず、平野部で1.75mに達し、死者4名傷者37名、建物損壊14棟に達し、除雪出動回数延355回、道路への雪崩や農林産建造物に被害続出。
平成21年7月18日	水害	集中豪雨	18~19日、県南部を襲った集中豪雨は、西仙北、協和地域で洪水となり、水田冠水・道路の決壊など甚大なる被害をもたらした。
平成21年10月7日	風害	台風18号	8日午後6時頃、秋田県に接近し、県南地域は暴風圏内となり市内全域にわたり非住家損壊8棟、停電82世帯、ビニールハウスなど農業施設などに大きな被害がでた。
平成22年4月14日	風害	突風	14日16時20分に暴風雪警報が発令され、最大瞬間風速約31mを観測し軽傷者1名、住家損壊7棟、非住家損壊16棟など大きな被害がでた。
平成22年8月14日	水害	集中豪雨	14日午後から豪雨になり、中仙支所で最大雨量86mmを観測し大曲の福部内川が増水氾濫が予想され、福見町の流域一帯に避難勧告を発令、住家の床上浸水1戸、床下浸水21戸、田畑の冠水など被害がでた。
平成23年1月~3月	雪害	豪雪	22年末からの積雪により大曲西根では平成に入って過去最高186cmに達し、雪下ろし事故死者5名、負傷者25名、住家の損壊などの被害が続出した。
平成23年3月11日 午後2時46分	地震	東日本 大震災	三陸沖を震源とする観測史上最高のM9.0の大地震が発生。その後大津波や原子力災害などで国を挙げての災害対応に追われた。大仙市内では大曲・仙北で震度5強、刈和野で震度5弱、その他の地域は震度4を記録し、直ちに「大仙市災害対策本部」を設置、3月22日に「被災地・被災者支援本部」に切替え様々な支援を継続した。
平成23年6月23日	水害	集中豪雨	市全域で床上浸水115戸、床下浸水282戸、土砂災害9箇所水田冠水1,428haなど甚大な被害がでた。また、神岡・中仙・南外地域の一部で避難勧告を発令した。
平成24年4月3日	風害	低気圧	3日~4日にかけて急速に発達した低気圧の影響で、最大瞬間風速39mを観測、重傷者1名、軽傷者2名、建物全壊半壊など1,805棟、倒木1,975本、停電のピーク時(4日午前10時頃)は11,311戸に及んだ。農産物の被害も含め被害総額が約1億円に及んだ。
平成27年7月25日	水害	集中豪雨	北日本に停滞している前線の影響により、県内全域で大雨となり、太田真木で24時間雨量181mmを記録。中仙地域では齊内川が増水により堤防が決壊、清水地区34世帯120名に避難勧告を発令。市内全域で住家半壊1棟、床下浸水13棟の被害が発生した。
平成29年7月22日	水害	集中豪雨	停滞した梅雨前線の影響により大雨となり、協和峰吉川で観測史上最多となる24時間雨量363mmを観測。延べ21箇所15,335世帯41,090人に避難勧告、避難指示を発令、54箇所に避難所を開設し1,926人が避難。市内全域で住家の全壊3棟、半壊34棟、床上浸水265棟、床下浸水550棟のほか、各地で土砂崩れや田畑の冠水等により甚大な被害を受け、被害額は56.7億円に及んだ。
平成29年8月24日	水害	集中豪雨	日本海上の発達した低気圧からのびる前線により大雨となり、太田大台の観測所では24時間雨量211mmを観測、住家の床上浸水2棟、床下浸水26棟などの被害が発生した。
平成29年9月8日	地震	地震	神岡地域を震源とした地震により、神宮寺観測所で震度5強を記録し、住家6棟の一部損壊のほか、公共施設や事業所等でガラスや天井が破損する被害が発生した。
平成30年1月~3月	雪害	豪雪	平成29年11月に初雪を観測して以来、数日置きにまとまった雪が降っていた状況で、1月末から集中的に雪が降り続き2月20日に大曲西根で178cmの積雪深を記録。雪害により負傷者22名、住家全壊1棟、非住家全壊12棟などの被害が発生した。